

(様式2)

授業科目の概要について

学校名：豊橋技術科学大学	要件該当授業時数：286.5
課程名：IT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）	要件該当授業時数/総授業時数：74.4%

シラバス目次	分類	科目名	配当年次	授業時数	企業等	双方向	実地	実務家	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属	配信日・講義日	教室・オンライン講義	e-ラーニング	演習
1-1	必修	土壌植物栄養学		12.5					三枝 正彦	東北大学名誉教授	2022/12/3 (土) から配信		○	
1-2	必修	植物保護学		12.5				○	三宅 律幸	愛知県経済農業協同組合連合会	2023/1/28 (土) 2023/2/4 (土)	○		
1-3	必修	資源植物学		12.5					熊崎 忠	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター	2023/1/21 (土) 2023/2/18 (土)	○		
1-4	必修	植物生理学		12.5				○	山内 高弘	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター	2022/12/3 (土) 2022/12/10 (土)	○		
1-5	必修	農業統計学		12.5					李 凱	獨協大学 経済学部	2022/12/24 (土) 2023/1/7 (土)	○		
1-6	必修	農業経営学		12.5					竹谷 裕之	名古屋大学名誉教授	2022/12/3 (土) から配信		○	
1-7	必修	植物生体情報計測と活用のポイント		2					高山 弘太郎	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター	2022/12/18 (日)	○		
1-8	必修	ドローンの農業利用のポイント		2	○			○	鈴木 達也	株式会社みかわ元気ものがたり	2022/12/18 (日)	○		
1-9	必修	トヨタ方式による作業改善		2	○			○	疋田 浩二	トヨタ自動車株式会社	2022/12/18 (日)	○		
2-1	必修	ほ場-作物栄養診断 (施肥論を含む)		5/10				○	平内 央紀	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合 研究機構	2023/4/15 (土) から配信		○	
									三枝 正彦	東北大学名誉教授				
									中内 茂樹	豊橋技術科学大学 情報・知能工学系				
								○	井上 吉雄	東京大学 大学院農学生命科学研究科				
2-2	必修	6次産業実践論 (事例紹介を含む)		10				○	加藤 寛昭	食と農研究所	2023/8/15 (火) から配信		○	
2-3	必修	IT精密農業論 (農業ロボットを含む)		2/10					澁澤 栄	東京農工大学 農学研究院	2023/8/15 (火) から配信		○	
									梅田 幹雄	京都大学名誉教授				
								○	西村 洋	秋田県立大学 生物資源科学部				
								○	牧野 英二	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合 研究機構				
									村田 光明	大島商船高等学校				
2-4	必修	環境保全型農業論 (有機農業論を含む)		10					三枝 正彦	東北大学名誉教授	2023/8/15 (火) から配信		○	
2-5	必修	バイオマス活用論 (コンポスト、エネルギー含む)		10				○	平内 央紀	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合 研究機構	2023/8/15 (火) から配信		○	
2-6	必修	農業環境計測論 (農業簿記を含む)		10				○	梅田 大樹	日本大学 生物資源科学部	2023/4/15 (土) から配信		○	
								○	大山 克己	みのりラボ株式会社				
								○	房安 功太郎	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合 研究機構				
3-1	必修	情報管理論		6					入部 百合絵	愛知県立大学 情報科学部	2023年10月 または11月	○		
3-2	必修	環境経営論		6					後藤 尚弘	東洋大学 情報連携学部	2023年10月 または11月	○		
									井上 隆信	豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系				
3-3	必修	農業マーケティング論		6				○	日野 眞明	MORE 経営コンサルティング株式会社	2023年10月 または11月	○		
3-4	必修	農業支援政策論 (農業法規を含む)		10					竹谷 裕之	名古屋大学名誉教授	2023/8/15 (火) から配信		○	
3-5	必修	食農リスク管理論		4.5/6					功刀 由紀子	愛知大学名誉教授	2023年10月 または11月	○		
								○	山本 新也	豊橋市保健所				
								○	山本 英治	イノチオアグリ株式会社				
4	必修	先端IT農業研修		30	○	○	○	○	山内 高弘	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター	2023年内、5回			○
									熊崎 忠	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター				
								○	研修先担当者	農業者・企業等				
5	必修	課題解決技術科学研究		180	○	○	○		山内高弘	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター	2023年4月から 2024年2月			○
									熊崎 忠	豊橋技術科学大学 先端農業・バイオ リサーチセンター				
								○	受け入れ先担当者	農業者・企業等				
合計：22科目		385								時間				

* 申請する課程で受講可能な全ての科目について記入してください。

* 「企業等」、「双方向」、「実務家」、「実地」の欄に○を入れた科目については、要件に該当することを明記したシラバスを添付してください。

科目名	土壌植物栄養学 [Soil Science and Plant Nutrition] 1-1		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	三枝 正彦 [Saigusa Masahiko]		
授業の目標:			
作物栽培の基本である土壌について、その種類や性質、化学性、生物性、物理性などを講義するとともに、土壌に栽培する作物の栄養生理について、東三河の農業情勢を反映させながら、具体例を示しながら概説する。			
授業の内容 【75分×10回】			
1. 世界の食糧生産			
2. 土と土壌：世界の、日本の、渥美の土壌			
3. 土壌の物理性と作物の生育：団粒構造とは？			
4. 土壌の化学性と作物の生育：土壌反応の意義			
5. 土壌の生物性と作物の生育：土壌微生物の多様性			
6. 土壌の有機物と作物の生育			
7. 作物生育に対する肥料の役割：化学肥料と有機肥料			
8. 環境保全型農業			
9. 植物の生育に必要な元素			
10. 植物の養水分吸収能			
11. 窒素代謝と窒素固定			
12. 光合成のメカニズム			
13. 呼吸と炭素代謝			
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
世界の土壌、日本の土壌、そして渥美の土壌に関する先端的、基礎的知識を習得し、環境保全的、循環型農業の方向性を描けるようにする。また植物栄養学では主要な作物、野菜についての栄養特性、生育特性を理解する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
土壌、植物栄養、環境保全型農業、食料生産、肥料			

科目名	植物保護学 [Plant protection science] 1-2		選択必修	必須
時間割番号	授業科目区分		単位数	1
開講学期	曜日・時限		対象年次	
開講学部			開講年次	
開講学科				
担当教員	三宅 律幸 [Miyake Noriyuki] (愛知県経済農業協同組合連合会)			
授業の目標:				
農作物は栄養価が高く昆虫や菌類にとっては魅力のあるもので、昆虫や菌類などから多大な被害を受けやすい。従来は農薬に頼りすぎた防除を行ってきたが、実際例をまじえながら様々な方法を紹介し、継続的で安定した作物生産を行うにはどうしたらよいかを考える。				
授業の内容 【75分×10回】 ①実務家教員や実務家による授業				
1. 植物保護とは？				
2. 雑草学				
3. 植物病理				
4. カバープランツ				
5. 化学農薬				
6. コナガの防除				
7. 天敵とは				
8. 寄生蜂と農薬				
9. 微生物天敵				
10. 不妊化放飼法				
11. 線虫類				
12. 総合的有害生物管理1				
13. 総合的有害生物管理2				
予習・復習内容 特になし				
備考				
関連科目 なし				
教科書1	書名	植物医科学・上	ISBN	978-4-8425-0438-4
	著者名	難波成任 監修	出版社	養賢堂
	出版年		出版年	2008
教科書2	書名	植物保護	ISBN	
	著者名	一谷・中筋	出版社	朝倉書店
	出版年		出版年	2000
教科書に関する補足事項				
参考書1	書名	農薬を使いこなす	出版年	1984
	著者名		出版社	農文協
	出版年		出版年	
参考書2	書名		ISBN	
	著者名		出版社	
	出版年		出版年	
参考書3	書名		ISBN	
	著者名		出版社	
	出版年		出版年	
参考書に関する補足事項				
達成目標				
作物を健全に育成することで、安全な食物として収穫するための害虫や植物の病気および雑草などの防除に関連した基礎的知識を習得し、環境保全的、循環型農業の方向性を描けるようにする。特に総合的有害生物管理(IPM)のためには圃場の診断・予測が必要であり、その目を養う考え方を取得する。				
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:				
課題レポートにより評価する。				
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。				
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上				
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上				
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上				
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上				
定期試験 なし				
定期試験詳細				
その他				
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp				
ウェルカムページ eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp				
オフィスアワー eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp				
学習・教育到達目標との対応 合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定				
キーワード 害虫制御、植物病理、雑草制御、農薬、天敵、IPM(Integrated Pest Management)、総合的有害生物管理				

科目名	資源植物学 [Plant Resource Science] 1-3			選択必修	必須
時間割番号	授業科目区分			単位数	1
開講学期	曜日・時限			対象年次	
開講学部				開講年次	
開講学科					
担当教員	熊崎 忠 [Kumazaki Tadashi]				
授業の目標:					
我々の生活を支えている資源植物についての基礎的な知識を習得することを目的として、それらの類系区分、来歴、形態、生育特性、利用などを学ぶ。					
授業の内容 【75分×10回】					
1. 資源植物の類系区分1					
2. 農作物 食用作物1: 禾穀類					
3. 農作物 食用作物2: いも類・まめ類、工芸作物					
4. 園芸作物I 蔬菜1: 葉茎菜類					
5. 園芸作物I 蔬菜2: 根菜類					
6. 園芸作物I 蔬菜3: 果菜類1					
7. 園芸作物I 蔬菜3: 果菜類2					
8. 園芸作物II ハーブ					
9. 園芸作物III 果樹					
10. 園芸作物IV 花卉					
予習・復習内容					
特になし					
備考					
関連科目					
なし					
教科書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書に関する補足事項					
参考書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書3	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書に関する補足事項					
達成目標					
資源植物の役割について説明でき、有望な資源植物について自分で検索し、学習できる。資源植物の類系区分を記述でき、類系区分することの意義を説明できる。それぞれの資源植物の特徴を説明できる。					
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:					
課題レポートにより評価する。					
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。					
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上					
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上					
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上					
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上					
定期試験					
なし					
定期試験詳細					
その他					
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp					
ウェルカムページ					
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp					
オフィスアワー					
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp					
学習・教育到達目標との対応					
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定					
キーワード					
食用作物、工芸作物、園芸作物					

科目名	植物生理学 [Plant Physiology] 1-4		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	山内 高弘 [Yamauchi Takahiro] (豊橋技術科学大学)		
授業の目標:			
植物が様々な環境変化(水、光、接触、乾燥など)に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。また、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本について知る。			
授業の内容 【75分×10回】①実務家教員や実務家による授業			
1. 細胞の構造 1			
2. 細胞の構造 2			
3. 水の動き			
4. 呼吸とエネルギー 1			
5. 呼吸とエネルギー 2			
6. 光合成 1			
7. 光合成 2			
8. 植物ホルモン			
9. 窒素代謝			
10. 二次代謝産物			
予習・復習内容			
特になし			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
植物が様々な環境変化(水、光、接触、乾燥など)に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解することができる。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
細胞の構造、水の動き、呼吸とエネルギー、光合成、窒素代謝、二次代謝産物			

科目名	農業統計学 [Agriculture Statistics] 1-5		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時間	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	李 凱 [Li Kai]		
授業の目標:			
農業、農環境分野における数量解析、統計解析を、演習を含めて講義する。農業データの分類、検定、推定、解析方法の基礎理論を学ぶ。また、Excel によるデータ入力、解析、可視化など農業情報のための応用処理手法を習得する。			
授業の内容 【75分×10回】			
1. 統計学とは			
2. 標本の分布型			
3. 推定と信頼区間			
4. 仮説検定			
5. 2群の差の検定			
6. 多群の差の検定			
7. 回帰と相関			
8. カイ二乗検定			
9. 計数値データの検定			
10. 統計の正しい利用と解釈			
予習・復習内容			
特になし			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
統計処理の基礎的な知識が理解できる。Excelの基本操作を習得する。実験計画を習得する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
統計解析、t検定、分散分析、相関			

科目名	農業経営学 [Agricultural Management] 1-6			選択必修	必須
時間割番号	授業科目区分			単位数	1
開講学期	曜日・時限			対象年次	
開講学部				開講年次	
開講学科					
担当教員	竹谷 裕之 [Takeya Hiroyuki]				
授業の目標:					
近代農業を経営する際に、基礎として理解しておくべき内容を整理して講述するとともに、先進的事例を参考にして、また現代社会が求めるニーズや課題も含め検討することにより、受講者がこれからの経営の在り方・組み立て方について考えることが出来るようにする。					
授業の内容 【75分×10回】					
1. 「農業を経営する」とは何か					
2. 農業経営の目的は何か―「見えざる富と見えざる費用」も含めて―					
3. 農業する際の生産管理指標（規模と集約度）と農業生産がもつ特性					
4. 農業経営にかかる費用（固定費と変動費）と低減方法					
5. 経営部門は一つか複数か（専門化と複合化）					
6. 農業は一次産業か（範囲の経済）					
7. 農業経営の法人化					
8. 農業経営は他の経営とどう関わるか（産地化、資源循環）					
9. 農業経営は地域資源づくりにどう関わるか					
10. あるべき農業経営を求めて（総合討論）					
予習・復習内容					
e-learning なので必要に応じて自習する。					
備考					
関連科目					
なし					
教科書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書に関する補足事項					
参考書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書3	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書に関する補足事項					
達成目標					
統農業経営の基礎的知識を修得するとともに、経営分析できる力を付ける。また現代的課題に対応する経営像を掴みとることにより、農業経営力を向上する。					
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:					
課題レポートにより評価する。					
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。					
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が90点以上					
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が80点以上					
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が70点以上					
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が60点以上					
定期試験					
なし					
定期試験詳細					
その他					
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp					
ウェルカムページ					
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp					
オフィスアワー					
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp					
学習・教育到達目標との対応					
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定					
キーワード					
生産費・経営費、社会的費用・便益、範囲の経済、総合産地化、地域資源					

科目名	植物生体情報計測と活用のポイント [Use cases of measured plant growth data] 1-7		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	高山 弘太郎 [Takayama Kotaro]		
授業の目標:			
施設園芸における環境制御の高度化に向け、様々な生体情報の取得が進んでいる。たとえば、個体（または、少数個体群）レベルでの光合成速度や蒸散速度のリアルタイム計測なども生産現場に受け入れられつつある。本授業では、取得した生体情報の具体的な活用方法についての基本的な知識を得ることを目標とする。			
授業の内容 【120分×1回】			
1. 生産現場における光合成・蒸散リアルタイムモニタリングデータの環境調節・栽培管理への活用			
予習・復習内容			
なし			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
生産現場で取得された光合成・蒸散リアルタイムモニタリングデータを活用した環境調節・栽培管理戦略の策定が可能になる。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
光合成、蒸散、気孔コンダクタンス、環境応答、モデリング、光-光合成曲線、機械学習			

科目名	ドローンの農業利用のポイント [Key Point of Drone Technology in Agriculture Field] 1-8		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	鈴木 達也 [Suzuki Tatsuya]		
授業の目標:			
授業の内容 【120分×1回】①実務家教員や実務家による授業			
1. ドローンの沿革、ルール、技術的背景、産業分野の市場分析にはじまり、後半は主として、農業分野における、センシングや散布技術に焦点をしばって、その現状、将来展望、運用の実態について、実際のドローンに触れながら学び、実践的な導入の可能性について検討・評価する。			
予習・復習内容			
可能であれば、ドローンの基本的な知識をネット等で、情報収集する。			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標 ドローンについての基礎的な知識を習得し、特に、農業分野での活用の実態や、今後の可能性について理解する。自己の農場、業務でのドローンの活用可能性について、思考し、考察、プランニングを試みる。講義の後半に個別に計画と課題を考える時間を設ける予定。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
ドローン ロボット DX スマート農業 センシング NDVI 分析 生育診断			

科目名	トヨタ方式による作業改善 [Work improvement by Toyota Production System] 1-9			選択必修	必須
時間割番号	授業科目区分			単位数	1
開講学期	曜日・時限			対象年次	
開講学部				開講年次	
開講学科					
担当教員	疋田 浩二 [Hikida Koji] (トヨタ株式会社)				
授業の目標:					
授業の内容	【120分×1回】①実務家教員や実務家による授業				
	1. トヨタ生産方式の基本				
	2. 4S				
	3. 改善事例				
予習・復習内容					
備考					
関連科目	なし				
教科書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
教科書に関する補足事項					
参考書1	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書2	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書3	書名			ISBN	
	著者名	出版社		出版年	
参考書に関する補足事項					
達成目標	トヨタ生産方式の基本とカイゼン活動の入り口である4Sを習得する。				
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:	課題レポートにより評価する。				
	評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。				
	S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上				
	A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上				
	B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上				
	C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上				
定期試験	なし				
定期試験詳細					
その他	研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp				
ウェルカムページ	eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp				
オフィスアワー	eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp				
学習・教育到達目標との対応	合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定				
キーワード	TPS、自動化、ジャストインタイム、4S				

科目名	ほ場・作物栄養診断 [Diagnosis of Soil and Plant Nutrition] 2-1		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	平内 央紀 [Heinai Hironori]、三枝 正彦 [Saigusa Masahiko]、中内 茂樹 [Nakauchi Shigeki]、井上 吉雄 [Inoue Yoshio]		
授業の目標:			
近年、肥料のコスト削減や環境保全型の農業への関心が高まっている。本講義では、適正施肥のための土壌診断法や作物栄養診断法について解説する。さらに、生産現場で実践可能な簡易診断法も学ぶ。また、植物の生育や生産物の品質を非破壊計測する技術と原理となる基礎知識を習得する。			
授業の内容 【60分×10回】			
1. 土壌診断の意義－土壌診断法とその問題点 1	(平内 央紀 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)		①実務家教員や実務家による授業
2. 土壌診断の意義－土壌診断法とその問題点 2	(平内 央紀 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)		①実務家教員や実務家による授業
3. 簡易土壌診断法	(平内 央紀 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)		①実務家教員や実務家による授業
4. 土壌診断に基づいた土壌改良・施肥設計	(三枝 正彦)		
5. 作物の生理障害診断と対策 1：多量元素	(三枝 正彦)		
6. 作物の生理障害診断と対策 2：微量元素、有用元素	(三枝 正彦)		
7. 作物の簡易診断法	(三枝 正彦)		
8. 農産物の品質診断	(中内 茂樹)		
9. リモートセンシングを用いた生育診断 (1：リモートセンシングの原理と基礎知識)	(井上 吉雄 東京大学)		①実務家教員や実務家による授業
10. リモートセンシングを用いた生育診断 (2：リモートセンシングの応用事例)	(井上 吉雄 東京大学)		①実務家教員や実務家による授業
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
e-learning は孤独感に悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名 植物生産学(Ⅱ)土環境技術編	ISBN	
	著者名 松本聡・三枝正彦	出版社 文永堂	出版年 1998
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名 新しい土壌診断と施肥設計	ISBN	
	著者名 武田武	出版社 農文教	出版年 2002
参考書2	書名 原色、要素障害診断事典	ISBN	1990
	著者名 清水武	出版社 農文協	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A: これまで行われてきた土壌診断法について理解し、その問題点を指摘できる。			
B: 簡易土壌診断法を理解できる。			
C: 植物の生理障害を診断できる。			
D: 植物の生育を適切に計測することができる。			
E: 非破壊計測法とその原理を理解できる。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
土壌診断、植物栄養診断、施肥法、リモートセンシング、非破壊分析			

科目名	6次産業化実践論 [The sixth industrial practice theory] 2-2		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	加藤 寛昭 [Kato Hiroaki] (食と農研究所)		
授業の目標:			
6次産業化は、第1次、第2次、第3次産業と連携し1+2+3=6、あるいは1×2×3=6の更なる飛躍が期待される。消費者の視点に立った新たなビジネスにチャレンジする知識を習得し、新商品の開発、フードシステムの開発を通じて地域を活性化させる。			
授業の内容 【60分×10回】 ①実務家教員や実務家による授業			
1. 「6次産業化」とは何か			
2. 農山漁村の特性と新事業創出			
3. 食のマーケティング			
4. フードシステム・コーディネート論			
5. 地域資源利用論			
6. 6次産業化の必要性と展開パターン			
7. 6次産業化事例			
8. 6次産業化のビジネス構想			
9. 経営理念			
10. 商品開発実務			
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
e-learning は孤独感に悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A. 事例紹介や想定課題に対する解決方策の検討などを通じて、6次産業化の必要性、6次産業化の具体例、6次産業化を進める経営現場で必要とされる知識の習得を図る。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
6次産業化、農商工連携、地域の活性化			

科目名	IT 精密農業論 [Precision Farming] 2-3		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	澁澤 栄 [Shibusawa Sakae]、梅田 幹雄 [Umeda Mikio]、西村 洋 [Nishimura Yo]、牧野 英二 [Makino Eiji]、村田 光明 [Murata Mituaki]		
授業の目標:			
精密農業の特徴や独自性を紹介する。精密農業を実現するための技術体系の解明だけではなく、「食農」産業を創造する取り組みである精密農業を紹介する。また”大気汚染”と”熱環境の悪化” 大気環境問題に廻って、持続可能社会の形成などを考慮し大気環境計画の方法論を習得する。			
授業の内容 【60分×10回】			
1. 精密農業の経済性と精密農業技術	(澁澤 栄)		
2. 意思決定支援システムとサプライチェーン	(澁澤 栄)		
3. 農業知財とブランド	(澁澤 栄)		
4. 精密農業の実例紹介	(梅田 幹雄)		
5. 精密農業手法を活用したメタン発酵消化液の液肥化技術の開発	(梅田 幹雄)		
6. IT 農業に関する研究動向	(西村 洋：秋田県立大学)	①実務家教員や実務家による授業	
7. 農業用ロボット	(牧野 英二：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)	①実務家教員や実務家による授業	
8. 気象学基礎知	(村田 光明)		
9. 天気と天気図の関係	(村田 光明)		
10. 気象観測	(村田 光明)		
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
e-learning は孤独感に悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名 「精密農業」	ISBN	
	著者名 澁澤 栄編著	出版社 (朝倉書店)	出版年
参考書2	書名 「新・農業気象・環境学」	ISBN	
	著者名 長野 敏英 大政 謙次編	出版社 (朝倉書店)	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A. 精密基礎の概念、歴史、特徴及び日本の現状、課題、展望を理解する			
B. 精密農法の5大要素、及び農法の考え方に基いた地域の特徴、課題、解決策を理解する			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
精密農業、精密農法、センシング、センサー、大気環境、			

科目名	環境保全型農業論 [Sustainable Agriculture Systems] 2-4		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	三枝 正彦 [Saigusa Masahiko]		
授業の目標:			
地球環境が悪化する中、環境保全型産業と考えられてきた農業も、肥料や農薬の不適切使用、他産業から排出される産業廃棄物の投入、大規模平坦ほ場の造成による土壌浸食や重金属汚染、生物多様性の喪失など様々な環境問題に関連することが明らかになってきた。これまでの経済重視の農業では、地球環境に大きな負荷を与え、消費者に受け入れられない時代となってきた。ここでは地球環境に配慮した環境保全型農業（有機農業を含む）について解説するとともに、農業環境情勢が厳しい中、地球環境を考慮しつつ農業がビジネスとして成り立つような環境保全型農業のあり方について紹介する。			
授業の内容 【60分×10回】			
1. 地球環境と農業、負荷要因は			
2. 環境保全型農業とは？			
3. 環境保全型農業に関する各種農法			
4. 肥料は悪か、善か			
5. 化学農薬は有害か			
6. 遺伝子組み換え植物は有害か			
7. 農業への微生物利用			
8. 不耕起栽培			
9. 愛知県における環境保全型農業実践例			
10. 今後の農業のあり方			
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
e-learning は孤独感に悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A: 地球環境に配慮した環境保全型農業(有機農業を含む)について理解する。			
B: 地球環境を考慮しつつ農業がビジネスとして成り立つような環境保全型農業のあり方について考える。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
環境保全型農業、遺伝子組み換え植物、農業への微生物利用			

科目名	バイオマス活用論 [Utilization of Biomass] 2-5		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	平内 央紀 [Heinai Hironori] (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)		
授業の目標:			
バイオマスは、再生可能な物質資源・エネルギー資源として注目されている。ここでは、生物系廃棄物の農業利用、特にコンポストとしての利用を中心として講義する。また、バイオマスの利活用は、地域の環境保全や地域活性化において重要となっているため、バイオマスの活用事例をもとに地域環境政策の基本的な知識についても学ぶ。			
授業の内容 【60分×10回】 ①実務家教員や実務家による授業			
1. バイオマスとは			
2. バイオマスの農業利用 1. エコフィード			
3. バイオマスの農業利用 2. コンポスト (1) 堆肥と有機質肥料の基本			
4. バイオマスの農業利用 3. コンポスト (2) 堆肥の効果			
5. バイオマスの農業利用 4. コンポスト (3) 堆肥の過剰害と利用の課題			
6. バイオマスの農業利用 5. コンポスト (4) 堆肥・有機質肥料の適正施肥			
7. バイオマスのエネルギー利用 1. メタン発酵、木質ペレット、炭化			
8. バイオマスのエネルギー利用 2. バイオ燃料			
9. バイオマス利活用の評価			
10. 東三河地域におけるバイオマス利活用の事例			
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考			
e-learning は孤独感に悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A. バイオマスとは、何かを理解する。			
B. バイオマスを利活用して、地球環境にやさしい生物生産を行うための実践的な基礎知識を習得する。			
C. バイオマスの利活用による地域活性化を考えることができる。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
バイオマス、エコフィード、コンポスト、バイオマスエネルギー、バイオマスタウン			

科目名	農業環境計測論 [Measurement for Agro-Environment] 2-6		選択必修	必須
時間割番号	授業科目区分		単位数	1
開講学期	曜日・時限		対象年次	
開講学部			開講年次	
開講学科				
担当教員	梅田 大樹 [Umeda Hiroki]、房安 功太郎 [Fusayasu Kotaro]、大山 克己 [Oyama Katsumi]			
授業の目標:	植物の生育と、それに影響する気象環境の計測手法を学び、データ管理に基づく労務、経営管理手法を学ぶ。			
授業の内容	【60分×10回】			
1. 農業における環境計測	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
地球環境と農業、農環境の特徴、環境計測の意義など				
2. 農業環境計測1 (気象環境1)	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
光: 計測方法、機器、各種センサの測定原理、計測方法、農業現場の計測事例など				
3. 農業環境計測2 (気象環境2)	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
温度・湿度・CO2・風速・降雨: 計測方法、機器、各種センサの測定原理、計測方法、農業現場の計測事例など				
4. 農業環境計測3 (ほ場の観察)	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
温度・湿度・CO2・風速・降雨: 水・肥料成分: 計測方法、機器、各種センサの測定原理、計測方法、農業現場の計測事例など				
5. 作物計測1 (作物外部品質)	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
大きさ・形状・色: 計測方法、機器、各種センサの測定原理、計測方法、農業現場の計測事例など				
6. 作物計測2 (作物内部品質)	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
重さ(収量)・硬さ・鮮度・熟度・栄養価・安全性・嗜好性: 計測方法、機器、各種センサの測定原理、計測方法、農業現場の計測事例など				
7. ICTを活用した環境モニタリング	(梅田 大樹: 日本大学)	①実務家教員や実務家による授業		
フィールドサーバー、リモートセンシング、ハウス内複合環境制御システムの使用事例				
8. 大規模施設園芸(植物工場)の概要とその管理法	(大山 克己: みのりラボ株式会社)	①実務家教員や実務家による授業		
フィールドサーバー、リモートセンシング、ハウス内複合環境制御システムの使用事例 太陽光型植物工場、人工光型植物工場、事業モデル、日常管理法など				
9. 大規模施設園芸(植物工場)における労務管理の必要性	(大山 克己: みのりラボ株式会社)	①実務家教員や実務家による授業		
作業標準時間の把握、作業標準時間にもとづいた要員計画の策定法など				
10. 環境計測データに基づく経営管理	(房安 功太郎: 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)	①実務家教員や実務家による授業		
経営管理の基礎、環境計測と経営管理の関係、環境計測データに基づく経営管理の意義と注意点				
予習・復習内容	特になし e-learning なので必要に応じて自習する。			
備考	e-learning は孤独感到悩まされ脱落しやすいので、同期生やネットワークの仲間、スタッフと連携しながら学習を進める。			
関連科目	なし			
教科書1	書名	ISBN		
	著者名	出版社	出版年	
教科書2	書名	ISBN		
	著者名	出版社	出版年	
教科書に関する補足事項				
参考書1	書名	ISBN		
	著者名	出版社	出版年	
参考書2	書名	ISBN		
	著者名	出版社	出版年	
参考書3	書名	ISBN		
	著者名	出版社	出版年	
参考書に関する補足事項				
達成目標	A. フィールドの環境計測の重要性を説明できる。 B. 環境計測の方法を理解する。 C. 労務・経営管理のICT化のメリット・デメリットを理解する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:	課題レポートにより評価する。			
評価基準:	原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。 S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上 A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上 B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上 C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験	なし			
定期試験詳細				
その他	研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ	eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー	eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			

学習・教育到達目標との対応

合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定

キーワード

農環境、環境モニタリング、センシング、クラウド、農業経営

科目名	情報管理論 [information management] 3-1		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	入部 百合絵 [Iribe Yurie]		
授業の目標:			
農業現場に必要とされる農業情報の収集・分析及び加工・配布方法を学ぶ。そのため、PowerPoint によるプレゼンテーション、Excel によるデータ管理・分析、情報発信の道具の一つである Web サイトの制作など、農業情報のための情報処理ツールを習得する。			
授業の内容 【90分×4回】			
1. 情報検索と Excel 基礎			
2. Excel による統計解析			
3. PowerPoint によるプレゼンテーション (画像加工と動画編集含む)			
4. Web サイトの制作			
予習・復習内容			
特になし			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
授業内で参考書を随時紹介			
達成目標			
A. 情報収集と分析 (1) 農業経営管理ソフトを理解、(2) 統計解析の基本の理解			
B. プレゼンテーション (1) PowerPointによるプレゼンテーションの習得、(2) 情報発信の方法とツールの習得			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
IT、データ分析、プレゼンテーション、Web サイト制作			

科目名	環境経営論 [Environmental management] 3-2		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	後藤 尚弘 [Goto Naohiro]、井上 隆信 [Inoue Takanobu]		
授業の目標:			
近年の環境問題は様々な要素が絡んでおり、その本質を見極めることが容易ではない。本講義では農業従事者が知っておくべき環境問題（脱炭素化、地球環境問題、水質、廃棄物…）をわかりやすく解説するとともに、そのような環境影響を評価する方法について学習する。			
授業の内容 【90分×4回】			
1. 脱炭素化とは何かー動向と方向性ー		(後藤 尚弘)	
2. SDGs とは何かー環境問題との関連、我々ができることー		(後藤 尚弘)	
3. 農地からの水質汚染物質の流出について		(井上 隆信)	
農薬、栄養塩の農地からの流出特性について調査事例を紹介する。			
4. 廃棄物の管理手法について		(井上 隆信)	
産業廃棄物、一般廃棄物の排出量や処理・処分方法について、解説する。			
予習・復習内容			
特になし			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名		ISBN
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名		ISBN
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項 特になし。			
参考書1	書名		ISBN
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名		ISBN
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名		ISBN
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項 特になし。必要があれば、講義時に紹介する。			
達成目標 脱炭素、SDGsについて理解する。 農地からの水質汚染物質の流出について理解する。 廃棄物の処理・処分の現状を理解する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S：達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が90点以上			
A：達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が80点以上			
B：達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が70点以上			
C：達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点（100点満点）が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
脱炭素化、CSR、ESG、SDGs、環境マネジメントシステム、ライフサイクルアセスメント、SCOPE、総合環境評価、農業と環境問題、環境評価、LCA、地産地消			

科目名	農業マーケティング論 [Agricultural Marketing] 3-3		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	日野 眞明 [Hino Masaaki] (MORE経営コンサルティング株式会社)		
授業の目標:			
ビジネス創出のために、経営理念の立て方、SWOT分析、マーケティングの基礎知識および戦略立案とIT活用の促進、ブランドマーケティングの概要、ブランド化の仕方、ブランドの管理について、成功例を例示しながら教授する。			
授業の内容 【90分×4回】①実務家教員や実務家による授業			
1. 経営戦略とIT活用の基礎知識			
2. 事業計画立案の方法			
3. 売れるブランドマーケティングの考え方と手法			
4. 戦略シートの作成(演習)			
予習・復習内容			
備考			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	「ふせん1枚から始める『事業計画』」	ISBN 4864873410
	著者名	日野眞明	出版社 三恵社
	出版年	2015年	
教科書2	書名	「はじめまして 売れる『伝え方』のぜんぶです」	ISBN 4866936797
	著者名	日野眞明	出版社 ビジネスブック社
	出版年	2022年	
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名		ISBN
	著者名		出版社
	出版年		
参考書2	書名		ISBN
	著者名		出版社
	出版年		
参考書3	書名		ISBN
	著者名		出版社
	出版年		
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A. 基礎的な事項			
(1) ポジショニングが理解できる。(2) ターゲティングが理解できる。(3) ITを使ったマーケティングができる。			
B. マーケティング			
(1) 基本的なマーケティング理論が理解できる。(2) 戦略書を理解する。(3) 農畜産物の販売戦略を構築できる。(4) フレームワークの構築と利用ができる。			
C. ブランドデザイン			
(1) 農畜産物のブランド化への方法論を理解している。(2) 農畜産物のブランドデザインを構築できる。(3) ブランド農産物の販売戦略を構築できる。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
ポジショニング、ターゲティング、マーケティング、ブランドデザイン			

科目名	農業支援政策論 [Agricultural support policies] 3-4		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	竹谷 裕之 [Takeya Hiroyuki]		
授業の目標:			
農業を経営する際に、今現在進行している農業政策を、その実践的視点から学ぶことで、実学としての農業政策を考えて行く。			
授業の内容 【60分×10回】			
1. 土地利用型農業の現況と課題			
2. 土地利用型農業の展開事例			
3. 食料・農業・農村基本法と食料・農業・農村基本計画			
4. 担い手の育成・支援、農地集積（1）			
1) 法人化・経営の多角化等を通じた経営発展の後押し、担い手の不足する地域での集落 営農組織、農業経営の法人化：農業法人（農業生産法人等）、株式会社・合同会社			
2) 青年層の新規就農（青年農業給付金：準備型、経営開始型、初期投資負担軽減支援等）農業経営の法人化：農業法人（農業生産法人等）、株式会社・合同会社 農の雇用事業、次世代への経営継承支援事業			
5. 担い手の育成・支援、農地集積（2）			
3) 認定農業者制度、農地中間管理機構、経営所得安定対策、収入保険制等			
4) 女性の活躍推進			
6. 6次産業化、グローバルマーケットの開拓などを通じた新たな経営展開			
7. 新たな価値の創造と生産者責任（1）			
1) 需要構造の変化に対応した生産対策			
2) 知的財産の保護と活用、新品種の育成 （知的財産基本法、特許法、種苗法：育成者権、地域ブランド化の推進等について）			
8. 新たな価値の創造と生産者責任（2）			
3) 食品の安全確保、食料の安定供給 （食品安全行政に対応するための体制の見直し・強化、産地段階から消費段階にわたるリスク管理の確実な実施、消費者の安心・信頼の確保、総合的な食料安全保障政策の概要等）農業共済法の役割と限界、食品表示（JAS法、食品衛生法、薬事法、不当競争防止法等）			
4) 家畜や植物の防疫、廃棄物の適正処理 （植物防疫法、農薬取締法及び家畜伝染病予防法関連政策や総合防除等について）			
9. 農業生産インフラの整備と保全			
10. 地域資源の維持・継承、地域活性化			
予習・復習内容			
e-learning なので必要に応じて自習する。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A: 我が国の農業が直面する問題と、農業政策の狙い、政策実施について学び、その流れを理解する。			
B: 理論だけでなく、農業政策の現場展開の実際について理解を深める。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準：原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室：先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線：6655、e-mail：support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			

学習・教育到達目標との対応

合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定

キーワード

生産費・経営費、社会的費用・便益、範囲の経済、総合産地化、地域資源

科目名	食農リスク管理論 [Risk management for food and agriculture] 3-5		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	功刀 由紀子 [Kunugi Yukiko]、山本 新也 [Yamamoto Shinya]、山本 英治 [Yamamoto Eiji]		
授業の目標:	農産加工品を種とする HACCP や農産物の生産現場への GAP 導入の実務及び農畜産物の安全・安心の確保を目的とするトレーサビリティシステムの概要を学ぶ		
授業の内容 【90分×4回】			
1. HACCP について I	(功刀 由紀子)		
2. HACCP について II	(山本 新也: 豊橋市保健所)		
3. GAP の概要と動向 食品安全のための GAP	(山本 英治: イノチオアグリ株式会社) ①実務家教員や実務家による授業		
4. 農場チェック～事例紹介	(山本 英治: イノチオアグリ株式会社) ①実務家教員や実務家による授業		
予習・復習内容	なし		
備考			
関連科目	なし		
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
A. 基礎的な事項	(1) トレーサビリティが理解できる。(2) HACCP を理解できる。(3) GAP を理解できる。		
B. 食品の安全	(1) 農産物生産における安全性の確保の取り組みを理解できる。(2) トレーサビリティ導入の背景を理解できる。(3) 農産物の安全性への取り組みを理解できる。(4) 病原性微生物に対する衛生管理の重要性を説明できる。		
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:	課題レポートにより評価する。		
	評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。		
	S: 達成目標の 90% を達成しており、かつ試験・レポートの合計点 (100 点満点) が 90 点以上		
	A: 達成目標の 80% を達成しており、かつ試験・レポートの合計点 (100 点満点) が 80 点以上		
	B: 達成目標の 70% を達成しており、かつ試験・レポートの合計点 (100 点満点) が 70 点以上		
	C: 達成目標の 60% を達成しており、かつ試験・レポートの合計点 (100 点満点) が 60 点以上		
定期試験	なし		
定期試験詳細			
その他	研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F2-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp		
ウェルカムページ	e-メールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp		
オフィスアワー	e-メールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp		
学習・教育到達目標との対応	合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定		
キーワード	病原性細菌、HACCP、GAP、リスク管理		

科目名	先端IT農業研修 [Leading agriculture training] 4		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	1
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	山内 高弘 [Yamauchi Takahiro]、熊崎 忠 [kumazaki Tadashi]		
授業の目標:			
国内の先端的農業を現地研修し、生産者と直に、現場の問題や成功している要因を語り合うことによって、低迷する日本農業をビジネスとして成立させる要因を解析する。			
授業の内容 ①実務家教員や実務家による授業 ②双方向若しくは多方向に行われる討論 ③実地での体験活動 ④企業等と連携した授業			
1. 先端施設研修 その1 (国内) (山内 高弘:豊橋技術科学大学、熊崎 忠) 【6時間】			
2. 先端施設研修 その2 (国内) (山内 高弘:豊橋技術科学大学、熊崎 忠) 【6時間】			
3. 先端施設研修 その3 (国内) (山内 高弘:豊橋技術科学大学、熊崎 忠) 【6時間】			
4. 先端施設研修 その4 (国内) (山内 高弘:豊橋技術科学大学、熊崎 忠) 【6時間】			
5. 先端施設研修 その5 (国内) (山内 高弘:豊橋技術科学大学、熊崎 忠) 【6時間】			
*内容は年度ごとに変わるので過去の研修先を以下に記述する。			
【国内研修】			
1. 愛知農試東三河研究所、伊藤園芸(有):ラン、イシグロ農芸(有):菊の低炭素園芸施設			
2. 豊橋技術科学大学エレクトロニクス先端融合研究所、豊橋種苗研究農場:トマト、牧野成樹氏生産施設:ミニトマト、JA 愛知経済連営農支援センター:トマト			
3. 近藤園芸(株):ピーマン、農事組合法人アグリパーク南陽:トマト、(株)中部タモギタケ:キノコ			
4. 沼野氏栽培施設:小菊、小林氏栽培施設:ハツカダイコン、吉本氏栽培施設:トマト			
5. サンライズファーム豊田:トマト、ミニトマト、明伸興産(株)人工光型植物工場:レタス			
予習・復習内容	先端農業の情報収集		
備考	海外研修にかかる費用は自己負担		
関連科目	なし		
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
国内研修:最先端の農業の現地研修で生産者と会話し、農業の現状と今後の方向性を理解する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
課題レポートにより評価する。			
評価基準:原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S:達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A:達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B:達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C:達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
なし			
定期試験詳細			
その他			
研究室:先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線:6655、e-mail:support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
合格点に達しない場合はレポートの再提出により再度判定			
キーワード			
生産費・経営費、社会的費用・便益、範囲の経済、総合産地化、地域資源			

科目名	課題解決技術科学研究 [Problem-solving type practical research] 5		
時間割番号	授業科目区分	選択必修	必須
開講学期	曜日・時限	単位数	6
開講学部		対象年次	
開講学科		開講年次	
担当教員	山内 高弘 [Yamauchi Takahiro] (豊橋技術科学大学)、熊崎 忠 [kumazaki Tadashi]		
授業の目標:			
最先端土地利用型 IT 農業で栽培管理実習を行うと共に、受講者の生産現場における問題を解決するための課題を設定し1年間、豊橋技術科学大学のスタッフの指導の下に技術科学的研究を行う。			
授業の内容 【180 時間】 ①実務家教員や実務家による授業 ②双方向若しくは多方向に行われる討論 ③実地での体験活動 ④企業等と連携した授業 週1回1日4H×1月4週×11ヶ月(4~2月)+2H(中間発表)+2H(最終発表)=180H *①②③④の要件を常に複数満たしている形。			
実務訓練: 豊橋技術科学大学や企業が有する栽培圃場等で、土地利用型 IT 栽培管理や生育、収量調査、データ収集、分析法などを学ぶ。			
課題研究: 我が国では農学と農業生産現場が乖離しているため、受講生は生産現場における課題を発掘し、それについて、本大学教員や企業研究者の指導、意見交換の下で、生産現場のスタッフらと討議を重ねて、試験及び調査計画の作成、調査の実施、データ集計、分析まとめ、考察等を自ら行い、現場に即した技術科学的調査研究を1年間実施する。			
予習・復習内容			
自己の設定した課題に関する文献検索を行う。研究遂行中は本学指導教員や企業研究者の指導員等と随時討議する。			
備考			
3月には課題研究発表会を行い、優秀者を表彰する。			
関連科目			
なし			
教科書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
教科書に関する補足事項			
参考書1	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書2	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書3	書名	ISBN	
	著者名	出版社	出版年
参考書に関する補足事項			
達成目標			
実務訓練: 最先端の土地利用型IT農業の最新の栽培管理や生育、収量調査法を習得する。			
課題研究: 自己の設定した現場の課題を研究し、現場に即した科学的研究法を習得する。			
成績の評価法(定期試験、課題レポート等の配分)および評価基準:			
レポートと研究成果発表会の採点により評価する。			
評価基準: 原則的にすべての講義を受講したものにつき、下記のように成績を評価する。			
S: 達成目標の90%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が90点以上			
A: 達成目標の80%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が80点以上			
B: 達成目標の70%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が70点以上			
C: 達成目標の60%を達成しており、かつ試験・レポートの合計点(100点満点)が60点以上			
定期試験			
課題研究発表会			
定期試験詳細			
パワーポイントを使用し、7分間のプレゼンテーションと3分間の質疑を行う。			
その他			
研究室: 先端農業バイオリサーチセンター F-904-3、内線: 6655、e-mail: support@recab.tut.ac.jp			
ウェルカムページ			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
オフィスアワー			
eメールで随時対応します。support@recab.tut.ac.jp			
学習・教育到達目標との対応			
各受講生に指導教員を設定し、到達目標に向かって随時話し合いながら課題研究を進める。			
キーワード			
最先端土地利用型 IT 農業、実務訓練、技術科学、課題解決、課題研究			